

富士宮ニジマス高校生PR



「鱒音頭！マスマス元気にな～れ！」の振り付けに取り組む高校生たち（21日、富士宮市で）

富士宮市の特産品で「市の魚」でもあるニジマスをPRし、地域活性化につなげようと、高校生らが、ニジマスをテーマにした新たな歌と踊りの振り付けに挑んでいる。練習を積み、3月5日に富士養鱒漁協（同市）などが市中心部の神田川ふれあい広場で開く「にじます祭」のステージでお披露目する予定だ。

七五調音頭 「みんな元気に住んでます」

中心となつてゐるのは、

市内の高校生が横断的に組織

する団体「富士宮高校会議所」。同会議所はこれまでニジマスの加工かすを

地元の朝霧牛のぶん尿に混ぜた有機堆肥「マスマス元

肥」を商品化し、それをもとに作った農作物で菓子などを開発するなど、ニジマスの活用に取り組んできた。

「ニジマスをテーマにした歌を」とのアイデアも、2年前に高校生の中から生まれた。「にじます祭」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために本来の形で開けない年が続いたが、今春は通常開催にすると決まった。これから活動が本格化し、1月21日に初めて振り付けた練習を行った。

作詞作曲は、市内で音楽教室を主宰する妹尾良華さん（58）が担当。シンプルな音頭のリズムで、「リは静岡富士宮」「みんな元気になりました」「ニジマスカワマス住んでます」と

七五調の「当地メッセージをのせた「鱒音頭—マスマス元気にな～れー」が完成した。

富士山の稜線を両手の動きで示し、小刻みに手を左右に振つてニジマスの泳ぐ様子を表すなど、振り付けも工夫した。練習で踊つた同会議所副会頭の大木春菜さん（3年）は「初めは恥ずかしかつたが、夢中になると楽しい」と笑顔を見せた。

富士養鱒漁協によると、過去の「にじます祭」では地元小学校の児童が「ヘルシー・ニジマスクン」と題して曲に振りを付けて踊り、祭りのシンボル行事となつていた。ところが、コロナ禍で祭りが開けない間に、要領を知る教職員の異動などが重なり、小学校側から「継承は困難」との連絡があつた。

そんな中での高校生らの新たな提案で、同漁協の担当者は「ありがたいこと。祭り以外の場でも、広く親しまれる地域の曲になってほしい」と期待を込めた。